




iDRAC サービスモジュール 3.0.1 ユーザースガイド

メモ、注意、警告

-  **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。
-  **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。
-  **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

著作権 © 2017 すべての著作権は Dell Inc. またはその子会社にあります。Dell、EMC、およびその他の商標は、Dell Inc. またはその子会社の商標です。その他の商標は、それぞれの所有者の商標である場合があります。

2017 - 06

Rev. A00

目次

1 はじめに.....	6
本リリースの新機能.....	6
対応機能 — オペレーティングシステムマトリックス.....	6
Server Administrator と iDRAC サービスモジュールの共存.....	7
ソフトウェア可用性.....	7
iDRAC サービスモジュールのダウンロード.....	7
Dell EMC サポートサイトからのドキュメントへのアクセス.....	7
ソフトウェアライセンス契約.....	8
その他の必要マニュアル.....	8
2 インストール前のセットアップ.....	9
インストール要件.....	9
対応オペレーティングシステム.....	9
対応プラットフォーム.....	10
システム要件.....	10
3 iDRAC サービスモジュールのインストール.....	11
Windows 用 iDRAC を介した iDRAC サービスモジュールの初期インストール.....	11
iDRAC Express を介した iSM の初期インストール.....	11
Linux 用 iDRAC を介した iDRAC サービスモジュールの初期インストール.....	12
Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール.....	12
Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール.....	12
Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールコンポーネントの変更.....	13
Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールの修復.....	14
Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのアンインストール.....	14
対応 Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール.....	15
Linux オペレーティングシステムのプレインストール要件.....	15
Linux インストールの依存性.....	15
Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール.....	16
Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのアンインストール.....	17
VMware ESXi での iDRAC サービスモジュールのインストール.....	17
vSphere CLI の使用.....	18
VMware vSphere Management Assistant の使用.....	18
VMware Update Manager (VUM) の使用.....	19
Power CLI の使用.....	19
VMware ESXi の iDRAC サービスモジュールのアンインストール.....	20
Citrix XenServer での iDRAC サービスモジュールのインストール.....	20
Citrix XenServer への Dell GPG キーのインポート.....	20
Citrix XenCenter 管理 GUI がッシュボードを使用した iDRAC サービスモジュールのインストール.....	20
SSH またはローカルコマンドシェルを使用した iDRAC サービスモジュールのインストール.....	21
システム設定ロックダウンモードが有効な場合の iDRAC サービスモジュールのインストール.....	21

iSM インストーラを取得するための iDRAC URI のサポート.....	21
iDRAC FQDN としての idrac.local および drac.local のサポート.....	21
ホスト OS を介したよりシンプルな iDRAC アクセス.....	22
4 iDRAC サービスモジュールの設定.....	23
iDRAC ウェブインタフェースからの iDRAC サービスモジュールの設定.....	23
RACADM からの iDRAC サービスモジュールの設定.....	24
WSMAN からの iDRAC サービスモジュールの設定.....	24
5 iDRAC サービスモジュール監視機能.....	25
オペレーティングシステム情報.....	25
オペレーティングシステムへの Lifecycle Controller ログレプリケーション.....	25
自動システムリカバリ.....	26
Windows Management Instrumentation プロバイダ.....	26
NVMe PCIe SSD デバイスの取り外しの準備.....	26
リモート iDRAC ハードリセット.....	26
ホスト OS を介した iDRAC アクセス.....	26
iDRAC SNMP アラートの帯域内サポート.....	26
WSMAN のリモートでの有効化.....	27
iDRAC サービスモジュールの自動アップデート.....	27
FullPowerCycle	28
ボックス上の SupportAssist.....	28
SupportAssist 登録.....	29
SupportAssist Collection.....	29
SupportAssist Collection の設定.....	30
6 よくあるお問い合わせ (FAQ)	32
iDRAC サービスモジュールをインストールまたは実行する前に、Open Manage Server Administrator をアンインストールする 必要がありますか?.....	32
システムに iDRAC サービスモジュールがインストールされていることを確認する方法を教えてください。.....	32
システムにインストールされている iDRAC サービスモジュールのバージョンを確認する方法を教えてください。.....	32
iDRAC サービスモジュールをインストールするために必要な最低許可レベルは何ですか?.....	32
iDRAC サービスモジュールをインストールしようとすると、このサーバーはサポートされていません というエラーメッセージが表示され ます。対応サーバーの詳細については、『ユーザズガイド』を参照してください。どうすればよいですか?.....	33
USBNIC 経由の OS to iDRAC バススルーが正しく設定されていても、iDRAC サービスモジュールは、OS to iDRAC バススルー チャンネルを使用して、iDRAC と通信できません というメッセージが OS ログに表示されます。このメッセージが表示されるのはな ぜですか?.....	33
iDRAC サービスモジュールをインストールしようとすると、このオペレーティングシステムがサポートされていないというエラーメッセ ージが表示されます。.....	33
リモート iDRAC ハードリセット機能を使用して iDRAC をリセットしました。しかし、IPMI ドライブが応答せず、トラブルシューティ ングできません。.....	33
複製された LifeCycle ログはオペレーティングシステムのどこにありますか?.....	34
Linux オペレーティングシステムでアラートを送信するために iDRAC サービスモジュールで設定されているデフォルトの SNMP プ ロトコルは何ですか?.....	34
SMUX がシステムでサポートされていません。アラートを送信するためにはどのプロトコルを設定する必要があるでしょうか?.....	34

Agent-x プロトコルを使用してデフォルトでアラートを送信するよう設定するには、iDRAC サービスモジュールをどのように設定しますか？.....	34
Linux のインストール中にインストールする必要がある Linux 依存パッケージまたは実行可能プログラムは何がありますか？.....	34
Windows イベントビューアにカスタムフォルダを作成しましたが、LC ログがカスタムフォルダに複製されていません。ここで LC ログを複製するにはどうすればよいですか？.....	34
iDRAC サービスモジュールのインストール中に、グラフィカルユーザーインターフェイスからカスタムインストールオプションを選択して、ある機能を無効化したのですが、その機能を他のインターフェイスから有効化することができません。この機能を再び有効化するにはどうすればよいですか？.....	35
LDAP 経由の Active Directory ユーザーとしてホスト OS から iDRAC ページにアクセスできません。ホスト OS から iDRAC ページにアクセスを試みているが、サイトに到達できないという内容のエラーが発生します。この問題を解決するにはどうすればよいですか？.....	35
iDRAC の工場出荷時の設定へのリセット操作（racadm racresetcfg など）を実行すると、ホスト OS から iDRAC ページにアクセスできなくなりました。この問題を解決するにはどうすればよいですか？.....	35
オペレーティングシステムログに複製された SNMP トラップを対象とした、過去の LifeCycle ログ（LCL）警告を見えています。問題をトラブルシューティングできますか？.....	35
iSM を介して受信した iDRAC SNMP トラップのソース IP アドレスとして 169.254.0.2 が表示されています。この問題を解決するにはどうすればよいですか？.....	35
LOM へ OS から iDRAC へのパススルーを設定し、dcism-sync を実行しようとすると、アップデート操作が失敗します。どのように対処したらよいですか？.....	35

7 Linux インストーラパッケージ.....36

はじめに

本ガイドは、サポートされるオペレーティングシステムで iDRAC サービスモジュールをインストールする方法についての情報とステップバイステップ手順を説明します。

Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) サービスモジュールは、第 12 世代以降の Dell PowerEdge サーバーにインストールすることができる、オプションの軽量ソフトウェアアプリケーションです。iDRAC サービスモジュールは、iDRAC インタフェース（グラフィカルユーザーインタフェース (GUI)、RACADM CLI、および Web Service Management (WSMAN)) を追加のモニタデータで補完します。モジュールの機能は、インストールされる機能、およびお使いの環境固有の統合ニーズに応じて、対応オペレーティングシステム上で設定することができます。

iDRAC サービスモジュールアーキテクチャは IP ソケット通信を使用し、追加のシステム管理データ (OS/ デバイスドライバ) を iDRAC に提供します。また、OS 標準インタフェースを介したシステム管理データへのアクセスを持つ 1 対多コンソールも提供します。

本リリースの新機能

- Red Hat Enterprise Linux 6.9 (64 ビット) および Red Hat Enterprise Linux 7.3 のサポート
- VMware ESXi 6.0 U3 および ESXi 6.5 のサポート
- Citrix XenServer 7.1 のサポート
- iDRAC サービスモジュールの自動アップデートのサポート (Microsoft Windows および Linux オペレーティングシステム)
- 「ボックスの SupportAssist」機能のサポート
- DRAC ウェブ GUI への SupportAssist ケース管理およびコレクションのアップロード機能の追加
- FullPowerCycle オプションのサポート
- iDRAC GUI からの iDRAC サービスモジュールの初期インストールのサポート (Microsoft Windows および Linux オペレーティングシステム)
- Invoke-SupportAssistCollection ユーティリティを使用した Host-OS CLI からの SupportAssist Collection のサポート
- VMware ESXi サーバオペレーティングシステムでの OS ログ収集のサポート
- システム設定ロックダウンモードのサポート
- iDRAC の SNMP イベントフィルタに基づいた帯域内 SNMP アラートのサポート
- iSM インストーラを取得するための iDRAC URI のサポート
- USB 大容量ストレージを公開せずに、OS コレクタ OSC 統合を追加
- iDRAC FQDN としての idrac.local および drac.local のサポート
- ホスト OS を介したよりシンプルな iDRAC アクセス

対応機能 — オペレーティングシステムマトリックス

次のリストは、対応機能とオペレーティングシステムのリストです。

表 1. 対応機能 — オペレーティングシステムマトリックス

世代	機能	オペレーティングシステム			
		Microsoft Windows (HyperV システムを含む)	Linux	仮想化 (VMware ESXi)	仮想化 (Citrix XenServer)
第 14 世代	OS 情報の共有	有	有	有	有
	LC ログレプリケーション	有	有	有	有

自動システムリカバリ / ウォッチドッグ	有	有	有	有
Windows Management Instrumentation プロバイダ	有	無	無	無
iDRAC を使用した NVMe デバイスの取り外し準備	有	有	有	有
SupportAssist Collection	有	有	無	有
リモート iDRAC ハードリセット	有	有	有	有
ホスト OS を介した iDRAC アクセス	有	有	無	有
iDRAC SNMP アラートの帯域内サポート	有	有	有	有
Redfish クライアントを介したネットワークインタフェース監視のサポート	有	有	有	有
WSMAN のリモートでの有効化	有	無	無	有

* — iDRAC を使用した NVMe デバイスの取り外し準備 機能がサポートされているのは VMware ESXi 6.0 のみであり、その他の VMware ESX オペレーティングシステムバージョンではサポートされていません。

Server Administrator と iDRAC サービスモジュールの共存

システム内に、Server Administrator と iDRAC サービスモジュールの両方を共存させることができます。iDRAC サービスモジュールのインストール中にモニタ機能を有効にした場合、インストールが完了した後に iDRAC サービスモジュールが Server Administrator の存在を検知し、重複しているモニタ機能一式を無効にします。iDRAC サービスモジュールは Server Administrator とその機能をポーリングし続けます。Server Administrator が停止した場合は、常にそれぞれの Server Administrator サービスモジュールが有効になります。

ソフトウェア可用性

iDRAC サービスモジュールソフトウェアは、次から利用できます。

- 『Dell EMC Open Manage Systems Management Tools and Documentation』DVD
- サポートサイト — dell.com/support

iDRAC サービスモジュールのダウンロード

iDRAC サービスモジュールソフトウェアは、dell.com/support/home からダウンロードできます。

Dell EMC サポートサイトからのドキュメントへのアクセス

次のリンクを使用して、必要なドキュメントにアクセスします。

- Dell EMC Enterprise システム管理マニュアル — Dell.com/SoftwareSecurityManuals
- Dell EMC OpenManage マニュアル — Dell.com/OpenManageManuals
- Dell EMC リモートエンタープライズシステム管理マニュアル — Dell.com/esmmanuals

- iDRAC および Dell EMC Lifecycle Controller マニュアル — Dell.com/idracmanuals
- Dell EMC OpenManage Connections エンタープライズシステム管理マニュアル — Dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement
- Dell EMC 保守ツールマニュアル — Dell.com/ServiceabilityTools
- Client Command Suite システム管理マニュアル — Dell.com/DellClientCommandSuiteManuals
- a. Dell.com/Support/Home に移動します。
- b. **Choose from all products (すべての製品から選択)** をクリックします。
- c. **All products (すべての製品)** セクションで **Software & Security (ソフトウェアおよびセキュリティ)** をクリックして、次の中から必要なリンクをクリックします。
 - **Enterprise Systems Management (エンタープライズシステム管理)**
 - **Remote Enterprise Systems Management (リモートエンタープライズシステム管理)**
 - **Serviceability Tools (保守ツール)**
 - **Dell Client Command Suite (デルクライアントコマンドスイート)**
 - **Connections Client Systems Management (接続クライアントシステム管理)**
- d. ドキュメントを表示するには、必要な製品バージョンをクリックします。
- 検索エンジンを使用します。
 - 検索 ボックスに名前および文書のバージョンを入力します。

ソフトウェアライセンス契約

iDRAC サービスモジュールのサポートされるバージョンのオペレーティングシステム向けソフトウェアライセンスは、インストーラに含まれています。license_agreement.txt ファイルをお読みください。メディア上にファイルをインストールまたはコピーすることにより、license_agreement.txt ファイルの条件に同意したものと見なされます。

その他の必要マニュアル

このガイド以外にも、デルサポートサイト dell.com/support/home で入手できる次のガイドにアクセスできます。

- 『Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド』には、iDRAC の設定と使用についての詳細が記載されています。
- 『Dell Remote Access Controller Racadm ユーザーズガイド』では、Racadm コマンドラインユーティリティの使い方についての情報を提供します。
- 『Dell Update Packages ユーザーズガイド』は、システムアップデート対策の一環としての Dell Update Packages の入手方法と使い方を説明しています。
- 『Dell Event Messages Reference ガイド』には、システムコンポーネントを監視するファームウェアおよびその他エージェントによって生成されるイベントとエラーについての情報を提供します。
- 『Dell Lifecycle Controller 2 Web Services インタフェースガイド』は、Management (WS-Man) Management プロトコルのために Web サービスを活用するための情報と例を提供します。

インストール前のセットアップ

iDRAC サービスモジュールをインストールする前に、次の条件を確認します。

- 第 14 世代以降の Dell PowerEdge サーバ。対応プラットフォームのリストに関しては、「[対応プラットフォーム](#)」を参照してください。
- 最小ファームウェアバージョン - iDRAC9 - 3.00.00.00 以降。
- システム管理者特権。
- オペレーティングシステムのインストール手順をお読みください。
- 該当するリリースノートファイル、および『システムソフトウェアサポートマトリクス』をお読みください。
- インストール要件を読み、ご使用のシステムが最小要件を満たしていることを確認してください。
- iDRAC サービスモジュールアプリケーションをインストールする前にシステムで実行されているすべてのアプリケーションを終了してください。

インストール要件

本項では、iDRAC サービスモジュールの一般的な要件について説明し、対応オペレーティングシステムおよび基本的なシステム要件についての情報を提供します。

Windows

- Windows 2012 R2 および Windows Server 2016。


Linux

- Red Hat Enterprise Linux 6.9、Red Hat Enterprise Linux 7.3、および SUSE Linux Enterprise Server 12 SP2 オペレーティングシステム。

VMware ESXi

- VMware ESXi 6.0 U3、VMware ESXi 6.5。

 **メモ:** オペレーティングシステム固有の必要条件がインストール手順として記載されています。

 **メモ:** iDRAC サービスモジュールは、ユーザーインターフェースを使用してインストールできます。このインストーラはサイレントインストール方式もサポートしています。

対応オペレーティングシステム

iDRAC サービスモジュールのサポートは、次の 64 ビットオペレーティングシステムに対応しています。

- Microsoft Windows 2012 R2
- Microsoft Windows Server 2016
- Red Hat Enterprise Linux 6.9
- Red Hat Enterprise Linux 7.3
- SUSE Linux Enterprise Server 12 SP2
- VMware ESXi 6.0 U3
- VMware ESXi 6.5
- CentOS 7.1*
- CentOS 7.3*

- Citrix Xen 7.1 サーバ

* - iDRAC サービスモジュールは、リストされている任意の CentOS バージョンにインストールすることができます。デルは、CentOS に対しては限定されたサポートしか提供しません。CentOS におけるサポートの詳細に関しては、CentOS コミュニティにお問い合わせください。

対応オペレーティングシステムについての情報は、dell.com/support/home で『システムソフトウェアサポートマトリクス』を参照してください。

対応プラットフォーム

iDRAC サービスモジュール 3.0.1 は、第 14 世代の Dell PowerEdge サーバをサポートします。サーバは、そのタイプ、パフォーマンス、世代、および使用されているプロセッサに基づいて分類されます。

表 2. サーバの分類

サーバタイプ	詳細		
	全体的なパフォーマンス	世代	プロセッサ
ラック = R	1~5 — ローエンドサーバ 5~10 — ハイエンドサーバ	4 ~ 第 14 世代	0 — Intel プロセッサ
タワー = T			
モジュラー = M			

次に、iDRAC サービスモジュールでサポートされているプラットフォームのリストを示します。

表 3. 対応プラットフォーム

デルの第 14 世代 PowerEdge サーバ
R740、R740 XD、R640、R940、および C6420

システム要件

- 対応オペレーティングシステムのいずれか。対応オペレーティングシステムの詳細に関しては、[対応オペレーティングシステム](#)を参照してください。
- 最低 2GB の RAM。
- 最低 512MB の空きハードディスクドライブ容量。
- システム管理者権限。
- TCP/IP v 4 接続。

iDRAC サービスモジュールのインストール




iDRAC サービスモジュールは次のいずれのオペレーティングシステムにもインストールできます。

- [Microsoft Windows オペレーティングシステムへの iDRAC サービスモジュールのインストール](#)
- [対応 Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール](#)
- [VMware ESXi での iDRAC サービスモジュールのインストール](#)
- [Citrix XenServer での iDRAC サービスモジュールのインストール](#)

Windows 用 iDRAC を介した iDRAC サービスモジュールの初期インストール

iDRAC サービスモジュールバージョン 3.0.1 以降では、iDRAC インタフェースからサービスモジュールをインストールすることもできます。iSM は、ホスト OS のある iDRAC インストーラパッケージを使用して、シングルクリックインストールでインストールすることができます。このインストーラパッケージを使用すれば、ユーザーはデルサポートに問い合わせる必要も、また iSM をインストールする OM DVD も必要ありません。この機能により、iSM の互換バージョンが、サポートされている iDRAC ファームウェアにインストールされていることが確認できます。

iDRAC を介して iSM を初期インストールする手順：

1. **iDRAC サービスモジュールのセットアップ** ページにアクセスします。**サービスモジュールのインストール** ボタンをクリックします。
サービスモジュールインストーラ ダイアログボックスが表示されます。
2. システムに適切なスクリプトを選択し、**仮想コンソールの起動** をクリックします。
3. **セキュリティの警告** ダイアログボックスで、**続行** をクリックします。
ダイアログボックスには、アプリケーションステータスの確認を表示できます。
4. **セキュリティの警告** ダイアログボックスで、ライセンス契約の条件に同意し、**実行** をクリックします。
5. 資格情報を使用して、リモート / ローカルシステム（ホスト OS）にログインします。
インストーラファイルはローカルシステムにあります。
 **メモ:** インストーラは、ホスト OS で 30 分間使用できます。30 分以内にインストールを開始しないと、サービスモジュールのインストールを再開する必要があります。
6. インストーラをダブルクリックし、コマンドプロンプトに `ISM_Win.bat` を入力します。
iDRAC サービスモジュール インストーラウィザードが表示されます。
7. 一般的なインストール手順を続行し、インストールを完了します。
 **メモ:** インストールが完了したら、インストーラファイルはローカル / ホスト OS から削除されます。
 **メモ:** iDRAC サービスモジュールのセットアップ ページで、インストールが完了すると、サービスモジュールのインストール ボタンが無効になります。サービスモジュールのステータスは実行中として表示されます。

iDRAC Express を介した iSM の初期インストール

1. **iDRAC サービスモジュール** セットアップページから、**サービスモジュールのインストール** をクリックします。
2. サービスモジュールインストーラがホスト OS に公開され、ジョブが iDRAC で作成されています。
3. Microsoft Windows OS の場合、サーバに RDP するか、物理サーバコンソールに移動します。Linux OS の場合、ホスト IP に SSH するか、物理サーバコンソールに移動します。
4. 「SMINST」というラベルのデバイスの一覧でマウントされたボリュームを見つけ、適切なスクリプトをクリックして、インストールを開始します。
Microsoft Windows OS の場合、コマンドプロンプトからバッチファイル「ISM-Win.bat」を実行します。Linux OS の場合、シェルからスクリプト「ISM-Lx.sh」を実行します。

5. インストールが完了した後、iDRAC にサービスモジュールが **インストール済み** と表示され、最後にインストールされた日付が表示されます。

 **メモ:** インストーラは、ホスト OS で 30 分間使用できます。30 分以内にインストールを開始しないと、サービスモジュールのインストールを再開する必要があります。

Linux 用 iDRAC を介した iDRAC サービスモジュールの初期インストール

Linux オペレーティングシステム用の iDRAC を介した iDRAC サービスモジュールの初期インストールには、次のコマンドを使用します。

```
sh ISM_Lx.sh
```

Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール

iDRAC サービスモジュールは、デフォルトでサポートされているオペレーティングシステムにすべての機能をインストールし、すべての機能を有効にします。

Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール

サポートされているオペレーティングシステム向けの iDRAC サービスモジュールインストーラは、『Systems Management Tools and Documentation』DVD に収録されています。また、dell.com/support/home から iDRAC サービスモジュールインストーラをダウンロードすることもできます。

適切なコマンドラインスイッチを使用して、手動または自動インストールのいずれかの操作を実行することができます。iDRAC サービスモジュールは、OpenManage Essentials (OME) などのコンソールを使用した **プッシュ** メカニズムを使ってインストールできます。

1. **SYSMGMT** → **ISM** → **Windows** を参照して、iDRACSvcMod.msi を実行します。

iDRAC サービスモジュール - InstallShield ウィザードが表示されます。

2. **次へ** をクリックします。


ライセンス契約 が表示されます。

3. ソフトウェアライセンス契約を読んで、**ライセンス契約の条件に同意します** を選択してから、**次へ** をクリックします。

4. 次のオプションから **セットアップタイプ** を選択し、**次へ** をクリックします。

- **標準** - すべてのプログラム機能がインストールされます (必要なディスク容量は最大)。
- **カスタム** - インストールするプログラム機能と場所を選択することによって、インストールをカスタマイズします (上級ユーザー推奨)。利用できるオプションは次のとおりです。

- オペレーティングシステム情報
- 自動システムリカバリ
- Lifecycle ログレプリケーション
- Windows Management Instrumentation (WMI) プロバイダ
- Windows リモート管理
- ホスト OS を介した iDRAC アクセス
- iDRAC ハードリセット


 **メモ:** 次の手順は、セットアップタイプ ウィンドウで **カスタム オプション** を選択した場合のみに該当します。

 **メモ:** デフォルトでは、帯域内 SNMP トラップ 機能は有効になっていません。

a. インストールするプログラムの機能を選択して、**次へ** をクリックします。

Lifecycle Controller ログレプリケーション ウィンドウが表示されます。

b. LC ログを複製する場所を指定します。デフォルトでは、**標準 (Windows ログ / システム)** オプションが選択されており、LC ログは **イベントビューア** の **Windows ログ** フォルダにある **システム** グループ内に複製されます。**次へ** をクリックします。

 **メモ:** Lifecycle Controller ログレプリケーション ウィンドウで **カスタム オプション** を選択することによって **アプリケーションとサービス ログ** フォルダ内に **カスタムグループ** を作成することもできます。

- c. 認証モードを選択して WSMAN をリモートで有効化し、認証証明書が見つからない場合は自己署名証明書をインストールします。WINRM のポート番号を入力して通信を確立します。デフォルトのポート番号は 5986 です。
5. Host OS 機能を介した iDRAC アクセスによって使用される一意のポート番号を入力します。


 **メモ:** 1024 ~ 65535 の範囲内でポート番号を入力してください。

 **メモ:**

入力しない場合、ポート番号 1266 か、以前に設定されたポート（ある場合）がデフォルトで割り当てられます。


プログラムのインストール準備完了が表示されます。

6. **インストール** をクリックして、インストールを続行します。
戻る をクリックしてプリファランスを変更することもできます。

 **メモ:** 時折、OS ログで OS から iDRAC へのパススルーチャンネルに設定して iDRAC との通信を確立していても、iDRAC サービスモジュールと iDRAC との間の通信が確立できないことがあります。最新の『iDRAC サービスモジュールインストールガイド』を参照してくださいというメッセージが表示されます。トラブルシューティングの詳細については、[「よくあるお問い合わせ \(FAQ\)」](#)を参照してください。

これで iDRAC サービスモジュールが正常にインストールされました。

7. **Finish** (終了) をクリックします。

 **メモ:** Microsoft Windows 2016 オペレーティングシステムでは、iDRAC USB NIC デバイスの説明は、「リモート NDIS 対応デバイス」として表示されます。ユーザーのアクションは必要ありません。

サイレントインストール

iDRAC サービスモジュールは、インタラクティブなコンソールを使用せずにバックグラウンドのサイレントインストールでインストールすることができます。

- サイレントインストールを使用して iDRAC サービスモジュールをインストールするには、コマンドプロンプトに `msiexec /i iDRACSvcMod.msi /qn` と入力します。
- インストールログを生成するには、`msiexec /i iDRACSvcMod.msi /L*V <logname with the path>` を入力します。
- LC ログを既存のグループ、またはカスタムフォルダに複製するには、`msiexec /i iDRACSvcMod.msi CP_LCLOG_VIEW="<existing group name or custom folder name>"` を入力します。
- サイレントインストールを使用してホスト OS の iDRAC 機能を經由して iDRAC アクセスをインストールするには、`msiexec /i <location of the installer file>/iDRACSvcMod.msi ADDLOCAL=IBIA /qn` を入力します。
- WSMAN をインストールするには、`msiexec.exe /i iDRACSvcMod.msi ADDLOCAL="WSMAN_Enablement" CP_SELF_SIGN_CERT="2" CP_WSMAN_PORT="1234" CP_CERTIFICATE="1" CP_NEGOTIATE="1" /qn` を入力します。
- サポートされている言語でユーザーインタフェースを表示するには、`msiexec /i iDRACSvcMod.msi TRANSFORMS= <locale number>.mst` を入力します。ここでのロケール番号は次のとおりです。

表 4. サイレントインストール

ロケール番号	言語
1031	ドイツ語
1033	英語 (米国)
1034	スペイン語
1036	フランス語
1041	日本語
2052	簡体字中国語

Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールコンポーネントの変更

iDRAC サービスモジュールコンポーネントを変更するには、次の操作を実行します。

1. **SYSMGMT** → **ISM** → **Windows** と参照して、`iDRACSvcMod.msi` を実行します。


iDRAC サービスモジュール - InstallShield ウィザードが表示されます。

2. **次へ** をクリックします。
3. **修正** を選択します。

必要に応じて機能を有効化または無効化し、**次へ** をクリックします。

Lifecycle Controller ログレプリケーション ウィンドウが表示されます。

5. LC ログを複製する必要がある場所を指定します。デフォルトでは **標準 (Windows ログ / システム)** オプションが選択されており、LC ログは **イベントビューア** の **Windows ログ** フォルダにある **システム** グループ内に複製されます。**次へ** をクリックします。

 **メモ:** Lifecycle Controller ログレプリケーション ウィンドウで **カスタム オプション** を選択することによってアプリケーションとサービス ログ フォルダ内にカスタムグループを作成することもできます。

 **メモ:** 次のような状況では、システムを再起動する必要がある場合があります。

- **標準 (Windows ログ / システム)** オプションと **カスタム** オプションを切り替えた場合。
- ひとつのカスタムフォルダから別のフォルダに切り替えた場合。

インストールの準備完了 画面が表示されます。

6. Host OS 機能を介した iDRAC アクセスによって使用される一意のポート番号を入力します。

 **メモ:** 1024 ~ 65535 の範囲内でポート番号を入力してください。

 **メモ:** 入力しない場合、ポート番号 **1266** か、以前に設定されたポート (ある場合) がデフォルトで割り当てられます。

7. 処理を続行するには **インストール** をクリックします。
戻る をクリックしてプリファランスを変更することもできます。
これで iDRAC サービスモジュールが正常に変更されました。
8. **終了** をクリックします。

Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールの修復

故障している、または機能しない iDRAC サービスモジュールコンポーネントを修復する場合は、次の手順を実行します。

1. **SYSMGMT** → **ISM** → **Windows** と参照して、iDRACSvcMod.msi を実行します。

iDRAC サービスモジュール - InstallShield ウィザードが表示されます。

2. **次へ** をクリックします。
3. **修復** を選択し、**次へ** をクリックします。
インストールの準備完了 が表示されます。
4. 処理を続行するには **修復** をクリックします。
環境設定を変更するには、**戻る** をクリックします。
これで iDRAC サービスモジュールコンポーネントが正常に修復されました。
5. **終了** をクリックします。

Microsoft Windows オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのアンインストール

iDRAC サービスモジュールは、次の 2 種類の方法でアンインストールできます。

- [製品 ID を使用した無人アンインストール](#)
- [追加 / 削除機能を使用したアンインストール](#)


製品 ID を使用した無人アンインストール

msiexec /x {6728BF98-EB2D-413D-A629-F24A3C0C9631} /qn と入力し、製品 ID を使用して iDRAC サービスモジュールをアンインストールします。

追加 / 削除機能を使用したアンインストール

コントロールパネルの **追加** または **削除** オプションを使用して、iDRAC サービスモジュールをアンインストールできます。これを行うには、**スタート** → **コントロールパネル** → **プログラムと機能** の順にクリックします。


 **メモ:** iDRACSvcMod.msi の実行後に アンインストール を選択してアンインストールすることもできます。

 **メモ:** Windows イベントビューアの Windows ログ フォルダにある Application グループで、iDRAC サービスモジュールログを表示できます。

対応 Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール

iDRAC サービスモジュール全体は 1 つの Red Hat Package Manager (RPM) にパッケージ化されています。パッケージはシェルスクリプトとともに提供され、インストール、アンインストール、または使用可能な機能の有効 / 無効を切り替えることができます。

Linux のインストーラは単一 rpm インストールであるため、細かいインストールサポートはありません。機能の有効 / 無効の切り替えは、スクリプト形式のインストールでのみ可能です。

 **メモ:** インストーラは、すべての iDRAC サービスモジュール対応の 64 ビットバージョンの Red Hat Enterprise Linux 6、Red Hat Enterprise Linux 6.9、Red Hat Enterprise Linux 7.3、SUSE Linux Enterprise Server 12 SP2 オペレーティングシステムで使用できます。

 **メモ:** Yellowdog Updater, Modified (YUM)、VMware Update Manager (VUM) および Citrix XenServer Supplemental Pack などのリポジトリベースのインストールでは、デフォルトですべての機能が有効になっています。

 **メモ:** CentOS では、SupportAssist Collection の OS ログ収集機能はサポートされません。

Linux オペレーティングシステムのプレインストール要件

対応 Linux オペレーティングシステムを実行しているシステムに iDRAC サービスモジュールをインストールするには、`setup.sh` を実行します。

次のような基本的な機能要件を満たしていることを確認します。

- USBNIC モード用の OS-to-iDRAC パススルー機能がデフォルトで有効になっている。無効になっている場合は、手動で有効にします。
- IPv 4 ネットワークスタックがホストオペレーティングシステムで有効になっている。
- USB サブシステムが有効になっている。
- `udev` が有効になっている。iDRAC サービスモジュールを自動で起動するために必要です。

iDRAC の詳細については、dell.com/support/home で最新の『Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド』を参照してください。

Linux インストールの依存性

次は、インストールを完了するためにインストールする必要がある依存パッケージ / 実行可能ファイルのリストです。

表 5. Linux インストールの依存性

実行可能コマンド	パッケージ名
/sys	fileSystem
grep	grep
cut、cat、echo、pwd、	coreutils
lsusb	usbutils
find	findutils
シェルスクリプトコマンド	bash
ifconfig	net-tools
ping	lputils
chkconfig	RedHat Enterprise Linux <ul style="list-style-type: none">• chkconfig


	SUSE Linux Enterprise Server <ul style="list-style-type: none"> aaa_base
install_initd	RedHat Enterprise Linux <ul style="list-style-type: none"> redhat-lsb-core SUSE Linux Enterprise Server <ul style="list-style-type: none"> insserv
/etc/init.d/ipmi	OpenIPMI
Systemctl	systemd


Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのインストール

1. インストールできる機能が画面に表示されます。使用可能なオプションは次のとおりです。

- [1] ウォッチドッグ Instrumentation Service。
- [2] Lifecycle ログレプリケーション。
- [3] オペレーティングシステム情報。
- [4] ホスト OS を介した iDRAC アクセス。
- [5] iDRAC ハードリセット。
- [6] すべての機能。


2. 必要な機能をインストールするには、それぞれの機能の番号を入力します。


 **メモ:** コマンドでインストールする機能の番号を区切ってください。

 **メモ:** 3 つすべての機能をインストールするには、すべての機能 オプションを選択します。

3. インストールを続行しない場合は、**q** と入力して終了します。


 **メモ:** iDRAC サービスモジュール 2.4 以降では、インストール後に機能を変更することもできます。

 **メモ:** お使いの Linux オペレーティングシステムに iDRAC サービスモジュールがインストールされているかどうかを識別するには、`/etc/init.d/dcismeng status` コマンドを実行します。iDRAC サービスモジュールがインストールされ実行されている場合は、**実行中** 状態が表示されます。

 **メモ:** `init.d` コマンドの代わりに `systemctl status dcismeng.service` コマンドを使用して、iDRAC サービスモジュールが RedHat Enterprise Linux 7 または SUSE Linux Enterprise 12 オペレーティングシステムにインストールされているかどうかチェックします。

 **メモ:**

ホスト OS を介した iDRAC アクセス機能をインストールした場合、1024 ~ 65535 の範囲内で固有のポート番号を指定する必要があります。入力しない場合、ポート番号 1266 か、以前に設定されたポート（ある場合）がデフォルトで割り当てられます。

 **メモ:** OpenManage Server Administrator (OMSA) がすでに 1311 にインストールされている場合、同じポートを iDRAC サービスモジュールに使用できません。

サイレントインストール


iDRAC サービスモジュールは、ユーザーコンソールなしでもバックグラウンドでサイレントにインストールできます。これは、パラメータと `setup.sh` を使用して実行できます。

`setup.sh` を使用するために渡すことができるパラメータは、次の通りです。

表 6. サイレントインストール

パラメータ	説明
-h	ヘルプ：ヘルプを表示します

-l	インストール： 選択した機能をインストールして有効にします
-x	エクスペス： すべての機能をインストールして有効にします
-d	削除： iDRAC サービスモジュールコンポーネントをアンインストールします
-w	自動システムリカバリ： 自動システムリカバリ計装サービスを有効にします
-l	LC ログ： Lifecycle ログレプリケーションを有効にします
-o	OS 情報： オペレーティングシステムの情報を有効にします
-a	自動開始： コンポーネントのインストール後にインストールされたサービスを開始します
-O	ホスト OS を介した iDRAC アクセス： ホスト OS 機能を使用して iDRAC アクセスを有効にします

 **メモ:** Linux オペレーティングシステムでは、サイレントオプションを使用して操作を変更する機能は、Linux の Web バックから有効化し (`setup.sh` を使用)、以前、有効にされていた機能の状態が操作の変更中に新しい機能によって上書きされます。

Linux オペレーティングシステムでの iDRAC サービスモジュールのアンインストール

iDRAC サービスモジュールは、次の 2 種類の方法でアンインストールできます。

- [アンインストールスクリプトを使用する](#)
- [RPM コマンドを使用する](#)

アンインストールスクリプトを使用した iDRAC サービスモジュールのアンインストール

iDRAC サービスモジュールのアンインストールに使用するスクリプトは `dcism-setup.sh` です。シェルスクリプトを実行し、`d` を選択して iDRAC サービスモジュールをアンインストールします。

RPM コマンドを使用した iDRAC サービスモジュールのアンインストール

iDRAC サービスモジュールは、RPM コマンド `rpm -e dcism` をコマンドラインに入力するとアンインストールできます。


VMware ESXi での iDRAC サービスモジュールのインストール

一部のシステムでは、出荷時に VMware ESXi がインストールされています。これらのシステムのリストについては、dell.com/support/home で最新の『システムソフトウェアサポートマトリクス』を参照してください。

iDRAC サービスモジュールは、VMware ESXi オペレーティングシステムを実行しているシステムでのインストール用の .zip ファイルとして提供されます。.zip ファイルは命名規則 `ISM-Dell-Web-3.0.1-<ビルド番号>.VIB-<バージョン>.zip` に従っています。ここで、<バージョン> は対応 ESXi バージョンです。

対応 ESXi バージョンの zip ファイルは次のとおりです。

- ESXi 6.0 の場合 - `ISM-Dell-Web-3.0.1-<blno>.VIB-ESX60i.zip`
- ESXi 6.5 の場合 - `ISM-Dell-Web-3.0.1-<blno>.VIB-ESX65i.zip`

 **メモ:** iDRAC サービスモジュールの機能設定は、強制的 / やむを得ない再起動後には保持されません。設定ファイルのバックアップは、60 分ごとに定期的に行われるスクリプト `/sbin/auto-backup.sh` 経由の ESXi ハイパーバイザーによって作成されます。設定を保持する場合は、システムを再起動する前に `backup.sh` スクリプトを手動で実行します。

<http://vmwaredepot.dell.com/> から VMware vSphere コマンドラインインタフェース (vSphere CLI) をダウンロードして、Microsoft Windows または Linux システム上にインストールします。または、VMware vSphere Management Assistant (vMA) を ESXi ホストにインポートできます。

vSphere CLI の使用


vSphere CLI を使用して VMware ESXi に iDRAC サービスモジュールのソフトウェアをインストールするには、次の手順を実行します。

1. ISM-Dell-Web-3.0.1-<bldno>.VIB-<version>i.zip をコピーして、システムのディレクトリに解凍します。
2. ESXi ホスト上のすべてのゲストオペレーティングシステムをシャットダウンし、ESXi ホストをメンテナンスモードに設定します。
3. vSphere CLI を Windows で使用している場合は、vSphere CLI ユーティリティをインストールしたディレクトリに移動します。
vSphere CLI を Linux で使用している場合は、どのディレクトリからでもコマンドを実行できます。
4. 次のコマンドを実行します。

VMware ESXi 5.5 の場合 : `esxcli --server <IP Address of ESXi 5.5 host> software vib install -d /var/log/vmware/<iDRAC Service Module file>`.

VMware ESXi 6.0 の場合 : `esxcli --server <IP Address of ESXi 6.0 host> software vib install -d /var/log/vmware/<iDRAC Service Module file>`.

VMware ESXi 6.5 の場合 : `esxcli --server <IP Address of ESXi 6.5 host> software vib install -d /var/log/vmware/<iDRAC Service Module file>`.

 **メモ: vSphere CLI を Linux で使用している場合、拡張子 .pl は必要ありません。**

5. プロンプトが表示されたら、ESXi ホストのルートユーザー名とパスワードを入力します。
コマンド出力には、アップデートの成否が表示されます。
6. ESXi ホストシステムを再起動します。
インストールされた VIB の情報を入力または一覧表示するには、`esxcli-server<IP>software vib get` または `software vib list` を使用します。

VMware vSphere Management Assistant の使用

vSphere Management Assistant (vMA) によって、システム管理者および開発者は、ESXi システムを管理するためにスクリプトおよびエージェントを実行できます。vMA の詳細については、<http://vmware.com/support/developer/vima/> を参照してください。

1. システム管理者として vMA にログインし、プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。
2. ISM-Dell-Web-3.0.1-<bldno>.VIB-<version>i.zip ファイルをコピーして、vMA のディレクトリに解凍します。
3. ESXi ホスト上のすべてのゲストオペレーティングシステムをシャットダウンし、ESXi ホストをメンテナンスモードに設定します。
4. vMA で次のコマンドを実行します。

VMware ESXi 5.5 の場合 : `esxcli --server <IP Address of ESXi 5.5 host> software vib install -d /var/log/vmware/<iDRAC Service Module file>`.

VMware ESXi 6.0 の場合 : `esxcli --server <IP Address of ESXi 6.0 host> software vib install -d /var/log/vmware/<iDRAC Service Module file>`.

VMware ESXi 6.5 の場合 : `esxcli --server <IP Address of ESXi 6.5 host> software vib install -d /var/log/vmware/<iDRAC Service Module file>`.

5. プロンプトが表示されたら、ESXi ホストのルートユーザー名とパスワードを入力します。
6. ESXi ホストシステムを再起動します。

上記の手順を完了した後で、次の手順を実行します。

1. **iDRAC サービスモジュール** を管理ステーションに別途インストールします。
2. iDRAC サービスモジュールのインストール後、サービスを有効にします。

VMware Update Manager (VUM) の使用

iDRAC サービスモジュールをインストールするには、VMware Update Manager (VUM) を使用します。

1. 対応 Microsoft Windows オペレーティングシステムに VMware vSphere 5.x、またはそれ以降のバージョン (vCenter サーバー、vSphere クライアント、および VMware vSphere Update Manager) をインストールします。
2. デスクトップで、VMware vSphere クライアントをダブルクリックして、vCenter サーバーにログインします。
3. vSphere クライアントホストを右クリックして、**新規データセンター** をクリックします。
4. **新規データセンター** を右クリックして、**ホストの追加** をクリックします。画面の表示に従って ESXi サーバーの情報を準備します。
5. 直前の手順で追加された ESXi ホストを右クリックして、**メンテナンスモード** をクリックします。
6. **プラグイン** から **プラグインの管理** → **VMware Update Manager のダウンロード** を選択します (正常にダウンロードされると、ステータスは有効になります)。指示に従って、VUM クライアントをインストールします。
7. ESXi ホストを選択します。 **Update Manager** → **管理者ビュー** → **パッチリポジトリ** → **パッチのインポート** をクリックし、画面の表示に従ってパッチを正常にアップロードします。
オフラインバンドルが表示されます。
8. **ベースラインおよびグループ** をクリックします。
9. **ベースラインタブから作成** タブをクリックし、ベースライン名を指定してベースラインタイプとして **ホスト拡張** を選択します。
指示に従って残りを完了します。
10. **管理者ビュー** をクリックします。
11. **ベースラインへの追加** (アップロードされたパッチ名に対して) をクリックして、手順 8 で作成したベースライン名を選択します。
12. **コンプライアンスビュー** をクリックします。 **Update Manager** タブを選択します。添付 をクリックして手順 8 で作成した **拡張ベースライン** を選択し、指示に従います。
13. **スキャン** をクリックして、**パッチおよび拡張** を選択し (デフォルトで選択されない場合)、**スキャン** をクリックします。
14. **ステージ** をクリックし、作成した **ホスト拡張** を選択し、指示に従います。
15. ステージングが完了したら **修正** をクリックして、指示に従います。
iDRAC サービスモジュールのインストールが完了しました。
16. ホストを再起動します。

 **メモ:** VMware Update Manager についての詳細は、VMware の公式ウェブサイトを参照してください。

 **メモ:** iDRAC サービスモジュール を VUM リポジトリ <https://vmwaredepot.dell.com/> からインストールすることができます。

Power CLI の使用

Power CLI を使用して、iDRAC サービスモジュールをインストールするには、次の手順を実行します。

1. 対応 Microsoft Windows オペレーティングシステムに ESXi の対応 PowerCLI をインストールします。
2. ISM-Dell-Web-3.0.1-<bldno>.VIB-<version>i.zip ファイルを ESXi ホストにコピーします。
3. bin ディレクトリに移動します。
4. Connect-VIServer を実行して、サーバおよび資格情報を提供します。
5. ESXi 5.5、ESXi 6.0 U1、ESXi 6.0 U2 の対応 vSphere CLI を使用して ESXi ホストにログオンし、データストアを作成します。
6. フォルダ **ISM-Dell-Web-3.0.1-<ビルド番号>.VIB-<バージョン>I** を、ESXi 5.5、ESXi 6.0 U1、ESXi 6.0 U2 ホストの **/vmfs/volumes/<データストア名>** ディレクトリに作成します。
7. ESXi 5.0 U1 ホスト上の ESXi zip ファイルを **/vmfs/volumes/<データストア名>ISM-Dell-Web-3.0.1-<ビルド番号>.VIB-<バージョン>I** ディレクトリにコピーします。
8. 上で指定したディレクトリで zip ファイルを解凍します。
9. Power CLI で次のコマンドを実行します。

```
ESXi 5.5 の場合 : Install-VMHostPatch -VMHost <VMHost I.P address> - HostPath /vmfs/volumes/  
<datastore_name>name>/ISM-Dell-Web-3.0.1-<bldno>.VIB-<version>i/ cross_oem-dell-iSM-  
esxi_3.0.1.ESXi550-0000-metadata.zip。
```

ESXi 6.0 の場合 : `Install-VMHostPatch -VMHost <VMHost I.P address> - HostPath /vmfs/volumes/<datastore_name>/ISM-Dell-Web-3.0.1-<bldno>.VIB-<version>i/ cross_oem-dell-iSM-esxi_3.0.1.ESXi600-0000-metadata.zip。`

ESXi 6.5 の場合 : `Install-VMHostPatch -VMHost <VMHost I.P address> - HostPath /vmfs/volumes/<datastore_name>/ISM-Dell-Web-3.0.1-<bldno>.VIB-<version>i/ cross_oem-dell-iSM-esxi_3.0.1.ESXi650-0000-metadata.zip。`

10. ESXi ホストを再起動します。
11. 次のコマンドを実行して、ホストに iDRAC サービスモジュールが正常にインストールされたかどうか確認します。 `esxcli software vib list|grep -i open`。
12. iDRAC サービスモジュールが表示されます。

 **メモ:** Power CLI についての詳細は、VMware の公式ウェブサイトを参照してください。

VMware ESXi の iDRAC サービスモジュールのアンインストール

iDRAC サービスモジュールは、次のコマンドを使用してアンインストールすることができます。

```
$ esxcli software vib remove -n iSM
```

Citrix XenServer での iDRAC サービスモジュールのインストール

iDRAC サービスモジュールは、Supplemental Pack (アップデートパッケージ) の ISO イメージの形式で、Citrix XenServer にインストールされます。iDRAC サービスモジュールの Supplemental Pack は、OS のインストール中に Supplemental Pack の追加を求めるプロンプトが表示されたときでも、または OS のインストール後にいつでもインストールできます。

Citrix XenServer への Dell GPG キーのインポート

Citrix XenServer 7.1 へ Dell GPG キーをインポートするには、次のタスクを実行します。

1. 次の Dell GPG キーを Citrix XenServer へダウンロードします。 http://linux.dell.com/repo/pgp_pubkeys/0x1285491434D8786F.asc。あるいは、SSH またはローカルコマンドシェルを使用してファイルディレクトリを直接ホストへダウンロードします。
`$ wget http://linux.dell.com/repo/pgp_pubkeys/0x1285491434D8786F.asc`
2. ファイルは名前を変更する必要があります。
`$ mv 0x1285491434D8786F.asc RPM-GPG-KEY-DELL`
3. Dell GPG キーをインポートします。
`$ /opt/xensource/debug/import-update-key RPM-GPG-KEY-DELL`

Citrix XenCenter 管理 GUI ダッシュボードを使用した iDRAC サービスモジュールのインストール


互換性のある Citrix XenCenter を起動して、Citrix XenServer 7.1 に接続します。

1. **Tools** (ツール) メニューで、**Install Update** (アップデートのインストール) を選択します。
2. **Next** (次へ) をクリックして、**Select Update** (アップデートの選択) 画面に進みます。
3. Select Update (アップデートの選択) を選択するか、ディスクから Supplemental Pack を選択して、iSM Supplemental Pack ISO ファイルを参照します。
4. Citrix XenServer ホストをチェックして導入します。次に、**Next** (次へ) をクリックします。
5. Update successfully loaded (アップデートが正常にロードされました) というメッセージが表示されたら、**Next** (次へ) をクリックします。
6. 事前チェックをすべてパスしたことを確認して **Next** (次へ) をクリックし、**Update Mode** (アップデートモード) オプションを選択します。
7. **Install Update** (アップデートのインストール) をクリックします。
8. **Finish** (終了) をクリックします。

SSH またはローカルコマンドシェルを使用した iDRAC サービスモジュールのインストール

1. ISO ファイルを、Citrix XenServer ホストか、ホストにマウントされているリモート ISO ライブラリ共有のいずれかにコピーします。詳細については、*Citrix XenServer* のドキュメントを参照してください。
2. Supplemental Pack をインストールします。

```
$ xe-install-supplemental-pack < iDRACServiceModule-supplemental-pack-filename>.iso
```

 **メモ:** Supplemental Pack (アップデートパッケージ) のインストール時の無効な署名 : iDRAC サービスモジュールの Supplemental Pack のインストール中に、「無効な署名」というエラーが発生する場合、ホストの署名データベースに適切な Dell GPG キーが存在していません。この問題は、Citrix XenServer 7.1 のインストール中に発生する可能性があり、最初に手動でキーを各ホストにインポートしておく必要があります。Citrix XenServer 7.1 への Dell GPG キーのインポートの詳細については、「[Citrix XenServer への Dell GPG キーのインポート](#)」を参照してください。

システム設定ロックダウンモードが有効な場合の iDRAC サービスモジュールのインストール

iDRAC を介してシステム設定ロックダウンモードが有効な場合は、iDRAC サービスモジュールに対して設定操作は実行できません。システム設定ロックダウンモードをオンにする前に有効になっていたすべての機能は、引き続き有効です。システム設定ロックダウンモードが有効になった後に iSM をインストールした場合は、ユーザーは以前に有効になっていた iSM 機能のみを使用することができます。iDRAC でシステム設定ロックダウンモードをオフにすると、すべての設定操作を実行できます。

iSM インストーラを取得するための iDRAC URI のサポート

第 14 世代のサーバ以降は、次の URL を使用して、iSM の Web パックをダウンロードできます : `https://<iDRACIP>/software/ism/package.xml` パッケージをダウンロードするには、iSM LC DUP がアップロードされ、iDRAC で利用できなければなりません。これは、iDRAC LC の自動アップデートを有効にして、iDRAC にロードすることもできます。

パッケージをダウンロードするには、xml に存在するファイル名を使用して、URL に追加します。

例 :

```
<PayloadConfiguration>
<Image filename="OM-iSM-Dell-Web-LX-3.0.1.tar.gz" id="5DD5A8BA-1958-4673-BE77-40B69680AF5D"
skip="false" type="APAC" version="3.0.1"/>
<Image filename="OM-iSM-Dell-Web-LX-3.0.1.tar.gz.sign" id="E166C545-82A9-4D5D-8493-
B834850F9C7A" skip="false" type="APAC" version="3.0.1"/>
<Image filename="OM-iSM-Dell-Web-X64-3.0.1.exe" id="5015744F-F938-40A8-B695-5456E9055504"
skip="false" type="APAC" version="3.0.1"/>
<Image filename="iDRACSvcMod-3.0.1.appx" id="2457013e-c1b3-44fb-9b84-2cb6fb74c317"
skip="false" type="APAC" version="3.0.1"/>
<Image filename="RPM-GPG-KEY-dell" id="0538B4E9-DA4D-402A-9D96-A4A55EE2234C" skip="false"
type="APAC" version=""/>
<Image filename="sha256sum" id="06F61B54-58E2-41FB-8CE3-B7137A60E4B7" skip="false"
type="APAC" version=""/>
</PayloadConfiguration>
```

Microsoft Windows Web パックをダウンロードするには、次の URL にアクセスします : `https://<iDRACIP>/software/ism/OM-iSM-Dell-Web-X64-3.0.1.exe`

iDRAC FQDN としての idrac.local および drac.local のサポート

第 14 世代サーバ以降では、ホスト OS でサポートされているマルチキャストドメインネームシステム (mDNS) に関係なく、Web ブラウザに drac.local または idrac.local を入力してホスト OS から iDRAC GUI に接続できます。

ホスト OS を介したよりシンプルな iDRAC アクセス

14G 以降のサーバでは、ユーザーは login.html を iDRAC URL に追加する必要はありません。https:// <iDRACIP>: <ListenPortNumber> を入力すると自動的に iDRAC ログインページにリダイレクトされます。

iDRAC サービスモジュールの設定

iDRAC サービスモジュールの設定には次を使用することができます。

- [iDRAC ウェブインタフェース](#)
- [RACADM CLI コマンド](#)
- [WSMAN コマンド](#)

iDRAC ウェブインタフェースからの iDRAC サービスモジュールの設定

iDRAC ウェブインタフェースから iDRAC サービスモジュールを使用するには、**概要** → **サーバー** → **サービスモジュール** と選択します。

The screenshot shows the iDRAC Service Module Setup page. The page title is "Integrated Dell Remote Access Controller 9 | Enterprise". The navigation menu includes Dashboard, System, Storage, Configuration, Maintenance, and iDRAC Settings. The main content area is titled "iDRAC Service Module Setup" and contains the following information:

Service Module Installation	
Installation Status	Installed
Date of Last Install	5/31/2017
Available Installer Version	3.0.1
Install Service Module	
Version	
Installed Version on Host OS	3.0.1
Service Module Status	
Connection Status on Host OS	Running
Service on Host OS	Enabled ▼

RACADM からの iDRAC サービスモジュールの設定

iDRAC サービスモジュール、RACADM CLI コマンドを使用してアクセスおよび設定することができます。iDRAC サービスモジュールによって提供される機能のステータスを確認するには、`racadm get idrac.servicemodule` コマンドを使用します。このコマンドにより、iDRAC サービスモジュールの機能とその状態が一覧表示されます。

- OS 情報
- LCL レプリケーション
- WMI 情報
- 自動システムリカバリ処置
- ホスト OS を介した iDRAC アクセス
- iDRAC ハードリセット

機能を設定または構成するには、`racadm set idrac.servicemodule. <機能名> <有効または無効>` を使用します。

 **メモ:** リストされた属性または機能の名前の先頭にある # 記号は変更できません。

RACADM から iDRAC サービスモジュールを使用するには、dell.com/support/home で入手できる『RACADM コマンドライン iDRAC 8 および CMC 向けリファレンスガイド』の **サービスモジュール** グループにあるオブジェクトを参照してください。

WSMAN からの iDRAC サービスモジュールの設定

iDRAC サービスモジュールは、次のコマンドを使って WSMAN 経由でアクセスおよび設定できます。

iDRAC サービスモジュールを設定するには、次のコマンドを使用します。`winrm i ApplyAttributes http://schemas.dmtf.org/wbem/wscim/1/cim-schema/2/root/dcim/DCIM_iDRACCardService?CreationClassName=DCIM_iDRACCardService +Name=DCIM:iDRACCardService+SystemCreationClassName=DCIM_ComputerSystem+SystemName=DCIM:ComputerSystem -u:root -p:calvin -r:https://<Host IP address>/wsman -SkipCNcheck -SkipCAcheck -encoding:utf-8 -a:basic @{{Target="iDRAC.Embedded.1";AttributeName="AgentLite.1#<feature>";AttributeValue="1"}}`

WSMAN から iDRAC サービスモジュールを使用するには、dell.com/support/home で入手できる、Web services for Management (WS-Man) 管理プロトコルの活用情報と例が記載された『Dell Lifecycle Controller 2 Web Services Interface Guide』(Dell Lifecycle Controller 2 Web Services インタフェースガイド) を参照してください。

iDRAC サービスモジュール監視機能


次のサービスが提供されます。

- [OS 情報](#)
- [Lifecycle Controller ログのオペレーティングシステムへの複製](#)
- [自動システムリカバリ](#)
- [ストレージデータを含む Windows Management Instrumentation プロバイダ](#)
- [NVMe SSD デバイスの取り外し準備](#)
- [リモート iDRAC ハードリセット](#)
- [ホスト OS を介した iDRAC アクセス](#)
- [iDRAC SNMP アラートの帯域内サポート](#)
- [WSMAN のリモートでの有効化](#)
- [iDRAC サービスモジュールの自動更新](#)
- [FullPowerCycle](#)
- [ボックス上の Support Assist](#)

オペレーティングシステム情報

Server Administrator は現在、iDRAC とオペレーティングシステム情報とホスト名を共有しています。iDRAC サービスモジュールは、ホスト OS 名、サーバホスト IP アドレス情報、OS バージョン、完全修飾ドメイン名 (FQDN) などの同様の情報を iDRAC に提供します。ホスト OS 上でのネットワークインタフェースも表示されます。デフォルトでは、このモニタリング機能は有効になっています。この機能は、Server Administrator がホスト OS にインストールされている場合でも使用できます。

iDRAC サービスモジュール 2.4 を開始すると、VLAN、IPv6 ポリシーテーブル、またはそのような情報を、ブラウザ用の Redfish クライアントプラグインを介して表示することもできます。


 **メモ:** Redfish クライアントを使用して情報を表示するために必要な iDRAC の最小ファームウェアバージョンは 3.00.00.00 です。

オペレーティングシステムへの Lifecycle Controller ログレプリケーション

Lifecycle Controller (LC) のログを OS ログに複製します。ターゲットとしての OS ログオプションを持つすべてのイベント (アラートページ、または同等の RACADM / WSMAN インタフェース内) が、iDRAC サービスモジュールを使用して OS ログ内に複製されます。このプロセスは、Server Administrator によって実行されるシステムイベントログ (SEL) レプリケーションに似ています。

OS ログに含まれる一連のデフォルトのログは、SNMP トラップ/アラート用に設定されるログと同じです。iDRAC サービスモジュールがインストールされた後に LC ログに記録されるイベントのみが OS ログに複製されます。Server Administrator がインストールされている場合は、OS ログ内での重複 SEL エントリを避けるため、モニタ機能が無効になります。

iDRAC サービスモジュール 2.1 以降、LC ログを複製する場所をカスタマイズできるようになりました。デフォルトで、LC ログは、Windows イベントビューアの **Windows ログ** 内にある **システム** グループに複製されます。LC ログは既存グループに複製する、または Windows イベントビューアの **アプリケーションとサービスログ** フォルダ内に新しいフォルダを作成することができます。

 **メモ:** LC ログを複製する場所を選択できるのは、iDRAC サービスモジュールのカスタムインストール中、または iDRAC サービスモジュールの変更中のみです。

 **メモ:** iDRAC サービスモジュールの LCL ログのソース名は、iDRAC サービスモジュール から Lifecycle Controller ログ に変更されました。

自動システムリカバリ

自動システムリカバリ機能は、ハードウェア障害発生時にサーバをリセットするために使用されるハードウェアベースのタイマーです。再起動、電源の入れ直し、指定時間経過後の電源オフなどのシステムの自動リカバリ動作を実行することができます。この機能を有効にできるのは、オペレーティングシステムのウォッチドッグタイマーが無効になっている場合のみです。Server Administrator がインストールされている場合、この監視機能は、ウォッチドッグタイマーの重複を避けるために無効になります。

Windows Management Instrumentation プロバイダ

iDRAC サービスモジュールと共に提供される Windows Management Instrumentation (WMI) プロバイダは、Windows Management Instrumentation (WMI) を介してハードウェアデータを公開します。WMI は、オペレーティングシステムインタフェースを提供する Windows ドライバモデルに対する拡張の一式で、これを介して計装コンポーネントが情報と通知を提供します。WMI は、サーバーハードウェア、オペレーティングシステム、およびアプリケーションを管理するための Distributed Management Task Force (DMTF) からの Web-Based Enterprise Management (WBEM) および Common Information Model (CIM) 規格の Microsoft の実装です。WMI プロバイダは、Microsoft System Center などのシステム管理コンソールとの統合に役立ち、Microsoft Windows サーバを管理するためのスクリプト記述を可能にします。

NVMe PCIe SSD デバイスの取り外しの準備

Non-Volatile Memory Express (NVMe) Peripheral Component Interconnect Express (PCIe) ソリッドステートドライブ (SSD) は、システムをシャットダウンまたは再起動することなく取り外すことができます。デバイスを取り外しているときは、データの損失を防ぐために、そのデバイスに関連付けられているすべてのアクティビティを停止する必要があります。データの損失を防ぐには、すべてのデバイスに関連付けられたバックグラウンドアクティビティを停止する取り外し準備オプションを使用してください。その後、NVMe PCIe SSD を物理的に取り外すことができます。

リモート iDRAC ハードリセット

iDRAC を使用して、重要なシステムハードウェア、ファームウェア、またはソフトウェアの問題について対応サーバを監視することができます。時折、iDRAC はさまざまな理由で応答しなくなることがあります。このような場合は、サーバをソケットから引き抜いてオフにする必要がある場合があります。その後、iDRAC をリセットすることができます。

リモート iDRAC ハードリセット機能を使用すれば、iDRAC が応答しなくなったときにはいつでも、サーバをシャットダウンする必要なくリモート iDRAC リセット操作を実行することができます。iDRAC をリモートにリセットするには、ホスト OS での管理者権限を持っていることを確認してください。リモート iDRAC ハードリセット機能はデフォルトで有効となっています。

ホスト OS を介した iDRAC アクセス

デルの PowerEdge サーバを使用して、iDRAC の専用ネットワークを設定して、iDRAC 経由でハードウェアまたはデバイスのファームウェアを管理できます。専用のネットワークポートを介して、GUI、WSMAN、RACADM、および Redfish クライアントなどの iDRAC インタフェースにアクセスできます。

ハードウェアまたはファームウェアを管理する前提条件として、デバイスとサポートされている iDRAC インタフェース間の専用接続が必要です。ホスト OS 機能経由の iDRAC アクセスを使用して、デバイスと iDRAC の専用ネットワーク間の接続に関係なく OS IP からまたはホストから iDRAC インタフェースに接続することができます。この機能により、iDRAC がサーバに接続されていない場合でも、ハードウェアまたはファームウェアを監視できます。


iDRAC SNMP アラートの帯域内サポート


帯域外サーバ管理およびモニタリングツールである iDRAC を使用すると、SNMP トラップ / アラートをログに記録できます。ただし、帯域内エージェントを使用するホスト OS システムマネージメントの観点では、iDRAC から受信するトラップよりもホスト OS から受信される SNMP アラートが優先されます。SNMP アラートが iDRAC から受信された場合、アラートはシステム IP からではなく iDRAC IP からのものであるため、このアラートのソースを識別することが難しくなります。

サーバの第 14 世代以降、SNMP トラップ オプションが（警告 ページまたは同等の RACADM または WSMAN インタフェースで）ターゲットとなっているすべてのイベントは、iDRAC サービスモジュールを使用する OS を介して SNMP トラップとして受信することができます。iSM 3.0.1 以降と

iDRAC ファームウェア 3.0.0 以降、この機能では iSM LCL レプリケーション機能を有効にする必要がありません。iDRAC サービスモジュールがインストールされた後に LC ログに記録されるイベントのみが SNMP トラップとして送信されます。

iDRAC サービスモジュール 2.3 以降を使用することにより、iDRAC によって生成されるアラートに類似する SNMP アラートをホスト OS から受信できます。

 **メモ:** デフォルトでこの機能は無効になっています。帯域内 SNMP アラートメカニズムは iDRAC SNMP アラートメカニズムと共存可能ではありますが、記録されたログには両方のソースからの重複した SNMP アラートが含まれる場合があります。両方を使用する代わりに、帯域内または帯域外のオプションのいずれかを使用することが推奨されます。

 **メモ:** 帯域内 SNMP 機能は、バージョンが最小 2.30.30.30 の iDRAC ファームウェアを持つ第 12 世代以降のデル PowerEdge Server で使用することができます。

WSMAN のリモートでの有効化

現在、WMI 情報機能を使用してホストの Microsoft Windows WMI 名前空間に接続し、システムのハードウェアを監視できます。ホスト上の WMI インタフェースはデフォルトで有効であり、リモートでアクセスできます。ただし、WINRM の WMI アダプタを使用して WMI インタフェースにアクセスする場合、デフォルトでは有効になっていないため、手動で有効にする必要があります。この機能を使用すると、WINRM WMI 名前空間をインストール中に有効にしてリモートでアクセスできます。

この機能には、PowerShell コマンドを使用してアクセスできます。使用するコマンドは次のとおりです。

表 7.


コマンド	説明
<code>Enable-iSMWSMANRemote -Status enable - Forcereconfigure yes -Createselfsigncert yes - IPAddress <IP address> -Authmode Basic, Kerberos, Certificate</code>	リモート WSMAN 機能の有効化と設定
<code>Enable-iSMWSMANRemote -Status get</code>	リモート WSMAN 機能のステータスの表示
<code>Enable-iSMWSMANRemote -Status disable</code>	WSMAN リモート機能の無効化
<code>Enable-iSMWSMANRemote -Status enable - Forcereconfigure yes -Createselfsigncert yes - IPAddress <IP address></code>	リモート WSMAN 機能の再設定

 **メモ:** この機能を操作するには、サーバの認証証明書と https プロトコルが必要です。

iDRAC サービスモジュールの自動アップデート

iDRAC サービスモジュールバージョン 3.0.1 以降では、自動アップデートを実行できます。iSM 自動アップデートを iDRAC 自動アップデートプロセスに統合して、アップデートプロセスを容易にすることが目標です。

 **メモ:** iDRAC 自動アップデートが有効になっている場合、iDRAC サービスモジュール LC DUP を dell.com/support から最新バージョンにアップデートする必要があります。

 **メモ:** ユーザーが、support.dell.com からアップデートをダウンロードする必要はありません。更新された iSM パッケージは iDRAC でローカルに使用できます。

- iSM をインストールまたはアップデートするには、コマンドプロンプトに `dcism-sync.exe` と入力します。インストールウィザードの手順を完了します。
- ヘルプコンテンツを表示するには、`--help/-h` と入力します。
- サイレントインストールまたはアップデートを行うには、`--silent/-s` と入力します。
- 現在のバージョンをアンインストールして LC で使用可能なアップデートパッケージをインストールするには、`--force/-f` と入力します。

 **メモ:** このオプションは、前の設定を上書きします。

- アップデートパッケージのバージョンと、iDRAC サービスモジュールにインストールされているバージョンの詳細を取得するには、`--get-version/-v` と入力します。
- iDRAC サービスモジュールアップデートパッケージをユーザー指定のディレクトリにダウンロードするには、`--get-update/-g` と入力します。

- 特定の機能をインストールするには、`msiexec.exe` で使用される CLI 引数と同じように、`dcism-sync.exe -p "feature"` と入力します。
たとえば、Windows でホスト OS の iDRAC 機能を介して iDRAC アクセスをインストールするには、`dcism-sync.exe -p "ADDLOCAL=IBIA"` と入力します。

 **メモ:** iSM 自動アップデート実行可能ファイルは、[Dell TechCenter](#) で利用できます。iSM 自動アップデート実行可能ファイル `dcism-sync.exe` は、`msvcr100.dll` や `msvcrt100.dll` などの Microsoft C および C++ ランタイムライブラリに依存します。`dcism-sync` を正常に実行するには、これらの DLL が必要です。これらのライブラリは、Tech Center から <auto-update.zip> ファイルとしてダウンロードするか、または依存する DLL を `dcism-sync` が存在するフォルダにコピーできます。

FullPowerCycle

FullPowerCycle は、サーバの補助電源をリセットする方法を提供するインタフェース呼び出し機能です。サーバの補助電源で動作するサーバハードウェアの数は増加しています。また、サーバの問題の一部のトラブルシューティングでは、サーバの電源コードをユーザーが物理的に抜いて、補助電源で動作するハードウェアをリセットする必要があります。誰かに電源コードを物理的に抜く/差し込んでもらうことは、大幅なコストとお客様やサポート担当者の手間につながります。

このインタフェースを介してフルパワーサイクル**要求**が発行されたとき、システム電源はすぐに影響を受けません。代わりに、システムが S5 状態に移行したときに照会されるフラグが設定されます。このフラグが S5 エントリに設定されている場合、AC を取り外して交換すると同様に、システムが強制的に一時的な低電力状態になります。このフラグは、システムが S5 状態に入る前の、システムが S0 状態にあるときにはいつでも、**キャンセル** 機能を使用して、クリアできます。

iDRAC サービスモジュールのバージョン 3.0.1 以降では、システムで FullPowerCycle の異なるオプションが利用できます。システムでのフルパワーサイクルを要求、ステータスを取得、キャンセルするには、次のコマンドを使用します。

- システムで FullPowerCycle を要求するには、`./Invoke-FullPowerCycle -status request` と入力します。

 **メモ:** サーバのオペレーティングシステムによって仮想 AC パワーサイクル動作がトリガされたというメッセージが表示されます。

- システムでのフルパワーサイクルのステータスを取得するには、`./Invoke-FullPowerCycle -status get` と入力します。
- システムでのフルパワーサイクルをキャンセルするには、`./Invoke-FullPowerCycle -status cancel` と入力します。

 **メモ:** スケジュールされた日付と時刻にシステムがオフになるというメッセージが表示されます。

 **メモ:** Windows オペレーティングシステムでは、FullPowerCycle 操作にショートカットが使用できます。


ボックス上の SupportAssist

iDRAC サービスモジュールのバージョン 3.0.1 以降では、SupportAssist の登録を実行することができます。SupportAssist は時間を節約し、テクニカルサポートのサポートケースを合理化しますイベントベースのコレクションは、SupportAssist を使用してオープンサービスリクエストを作成します。スケジュールされたコレクションは、環境の監視と維持をサポートします。これらのコレクションには、ハードウェアデータ、RAID コントローラログ、OS、およびアプリケーションデータが含まれます。サポートされている機能は次の通りです。

- SupportAssist 登録** — バージョン 3.0.1 以降では、iSM は SupportAssist の登録をサポートします。これは、1 回限りのアクティビティです。名前、電子メール、住所、および電話番号などの必要な詳細を入力して、登録を完了できます。
- SupportAssist Collection** — iDRAC の SupportAssist Collection 機能は、ハードウェア、OS、および関連するアプリケーションデータについての情報を収集し、この情報を圧縮します。

SupportAssist は、次のことも提供します。

- プロアクティブな問題の識別
- ケースの自動作成
- デルのテクニカルサポートのエージェントが開始するサポートの連絡

 **メモ:** SupportAssist を利用するには、登録を完了する必要があります。

SupportAssist ダッシュボードには、次の項目を表示できます。

サービスリクエストサマリ

サービスリクエストサマリのセッションでは、次のリクエストの詳細を表示できます。

- オープン
- クローズ
- 送信済み

Support Assist の概要

契約タイプと有効期限の日付およびこのセッションの **自動収集** 設定の詳細などの**サービス契約** 詳細を参照できます。

サービスリクエスト タブで、作成されたリクエストとステータス、説明、ソース、サービスリクエスト ID、オープンした日付、クローズした日付などのリストを表示することもできます。




コレクションログ タブをクリックすると収集日時、ジョブ ID、コレクションタイプ、収集したデータ、収集ステータス、送信時刻などを表示することができます。

 **メモ:** 第 14 世代のサーバ以降は、ユーザーが、iDRAC から SupportAssist コレクションを手動で開始すると、USB 大容量ストレージデバイスはホスト OS に公開されません。OS コレクタファイルおよび収集したログファイルの転送は、iDRAC と iSM との間で内部的に処理されます。

SupportAssist 登録

iDRAC サービスモジュールは、ホスト OS にインストールして実行する必要があります。

また適切なインターネット接続も必要です。

1. iDRAC へのログイン。**メンテナンス** ドロップダウンメニューで、**SupportAssist** 機能を選択します。
SupportAssist 登録 ウィザードが表示されます。
2. **ようこそ** タブで、**次へ** をクリックします。
3. **連絡先および配送先情報** タブで、**名前、姓、電話番号、代替番号、電子メールアドレス、会社名、住所 1、住所 2、市、県、郵便番号、および国** などの主要連絡先情報を入力します。
 **メモ:** セカンダリ連絡先の追加 オプションをクリックして二次連絡先情報を追加できます。
 **メモ:** 登録を続行するには、必要なすべての必須情報を入力する必要があります。
4. 連絡先および配送先情報を入力したら、**次へ** をクリックします。
5. ソフトウェアライセンス契約を読んで、**ライセンス契約の条件に同意します** を選択してから、**登録** をクリックします。
 **メモ:** 登録プロセスの完了には数分かかる場合があります。登録が正常に完了すると、ユーザーは登録した電子メールアドレスに **SupportAssist** からのようこそ電子メールを受信します。
6. **サマリ** タブで、**登録 ID** および **自動機能** の現在の設定の詳細を参照できます。
7. **SupportAssist 登録** ウィザードを終了するには、**閉じる** をクリックします。
SupportAssist ページで、下部へ移動すると連絡先情報を表示できます。**編集** オプションをクリックして、プライマリまたはセカンダリ連絡先情報を変更します。**保存** をクリックして変更を適用します。

SupportAssist Collection

iDRAC の SupportAssist Collection 機能は、ハードウェア、OS、および関連するアプリケーションのデータに関する情報を収集し、この情報を圧縮します。現在、OS Collector ツールを手動で実行し、SupportAssist Collection レポートを生成する必要があります。iDRAC サービスモジュール 2.0 以降のバージョンを使用すると、OS コレクタツールが関連する OS およびハードウェア情報を自動的に収集します。OS および SupportAssist Collection 機能を使用したアプリケーション情報収集を含む自動サポートログの収集

収集プロセスが自動化されるため、iDRAC サービスモジュールを使用することによってテクニカルサポートレポートを収集するための手順の数が削減されます。

SupportAssist ホームページの、**収集の開始** ボタンをクリックして、SupportAssist Collection 機能を実行できます。

収集は、次のいずれかの方法で起動できます。

- 手動
- イベントベース
- スケジュールベース

収集するデータ

イベントベースのトリガがある場合、およびまたはスケジュールされたペースで、SupportAssist は自動的にコレクションを作成し、テクニカルサポートに送信します。次のタイプの情報を収集できます。


- システム情報
- ストレージログ
- OS およびアプリケーションデータ
- デバッグログ

収集プリファランス

ユーザーは、この機能を使用してコレクションのプリファランスを選択または設定できます。いずれかのタイプのコレクションのプリファランスを選択して、コレクションレポートを保存することができます。

- **今すぐ送信** — **収集** オプションをクリックすると、「the job has been successfully added to the job queue」という通知を受信します。
- **ローカルで保存**
- **ネットワークに保存** — このオプションを選択すると、**プロトコル**、**IP アドレス**、**共有名**、**ドメイン名**、**ユーザー名**、および **パスワード** などの **ネットワーク設定** の詳細を入力する必要があります。

コレクションプリファランスのいずれかを選択し、**収集** をクリックしてデータを受信できます。

 **メモ:** この機能は、対応 Microsoft または Linux オペレーティングシステムを実行しているシステムでの iDRAC サービスモジュール 2.0 以降のバージョンのインストール時に、デフォルトで使用可能になります。この機能を無効にすることはできません。

 **メモ:** CentOS では、Automatic SupportAssist Collection の OS ログ収集機能はサポートされません。

SupportAssist Collection の設定

SupportAssist ダッシュボード内を移動して、**設定** ドロップダウンメニューをクリックし、SupportAssist Collection 設定を開くことができます。

アーカイブディレクトリの設定

ディレクトリに SupportAssist が実行したコレクションのコピーを保管することができます。**アーカイブディレクトリの設定** ボタンをクリックして場所を設定する必要があります。

識別情報

ドロップダウンメニューをクリックして送信するデータには識別情報を含め、次のオプションのいずれかを選択できます。

- 無
- 有

電子メール通知

新しいサポートケースが開かれるか、または新しい SupportAssist コレクションがアップロードされたら、電子メール通知を受信する個別設定を選択できます。**電子メール通知** ドロップダウンメニューから、次のいずれかのオプションを選択します。

- 有
- 無

言語の設定を選択することもできます。利用可能な言語は次の通りです。

- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 日本語
- スペイン語
- 簡体字中国語

自動収集

自動収集機能はデフォルトで有効です。この機能を無効にするには、ドロップダウンメニューを使用します。

- **Enable (有効)**
- **Disable (無効)**

スケジュールの自動コレクション ドロップダウンメニューから次のオプションのいずれかを選択してスケジュールする収集の時間を指定するかまたは設定できます。

- **毎週**
- **毎月**
- **毎四半期**
- **なし**

自動収集を反復として設定することもできます。

ProSupport Plus 推奨事項レポートを表示するには、**ProSupport Plus 推奨事項レポートの送信** から **はい** を選択します。


プリファレンスの設定後に、**適用** をクリックして変更を保存します。

よくあるお問い合わせ (FAQ)

本項では、iDRAC サービスモジュールに関する FAQ をリストしています。

iDRAC サービスモジュールをインストールまたは実行する前に、Open Manage Server Administrator をアンインストールする必要がありますか？


番号 iDRAC サービスモジュールをインストールまたは実行する前に、iDRAC サービスモジュールによって提供される Server Administrator の機能が停止していることを確認してください。

 **メモ:** Server Administrator をアンインストールする必要はありません。

システムに iDRAC サービスモジュールがインストールされていることを確認する方法を教えてください。

iDRAC サービスモジュールがインストールされているかどうかを確認するには、次の操作を実行します。

- Windows の場合：
service.msc コマンドを実行します。DSM iDRAC サービスモジュール という名前のサービスがない場合は、サービスのリストから探します。
- Linux の場合：
/etc/init.d/dcismeng status コマンドを実行します。iDRAC サービスモジュールがインストール済みで実行されている場合は、ステータスが **実行中** となります。

 **メモ:** init.d コマンドの代わりに systemctl status dcismeng.service コマンドを使用して、iDRAC サービスモジュールが RedHat Enterprise Linux 7 および SUSE Linux Enterprise 12 オペレーティングシステムにインストールされているかどうかチェックします。

システムにインストールされている iDRAC サービスモジュールのバージョンを確認する方法を教えてください。

iDRAC サービスモジュールのバージョンを確認するには、**スタート** → **コントロールパネル** → **プログラムと機能**を の順にクリックします。インストールされている iDRAC サービスモジュールのバージョンが **バージョン** タブに一覧表示されます。また、**マイコンピュータ** → **プログラムのアンインストールまたは変更** を選択しても、バージョンのチェックを実行できます。

iDRAC サービスモジュールをインストールするために必要な最低許可レベルは何ですか？

iDRAC サービスモジュールをインストールするには、管理者レベルの権限を持っている必要があります。

iDRAC サービスモジュールをインストールしようとする、このサーバーはサポートされていません というエラーメッセージが表示されます。対応サーバーの詳細については、『ユーザーズガイド』を参照してください。どうすればよいですか？

iDRAC サービスモジュールをインストールする前に、iDRAC サービスモジュールのインストール先であるサーバまたはシステムが第 12 世代以降の Dell PowerEdge サーバであることを確認してください。また、64 ビットシステムを使用していることも確認します。

USBNIC 経由の OS to iDRAC パススルーが正しく設定されていても、iDRAC サービスモジュールは、OS to iDRAC パススルーチャネルを使用して、iDRAC と通信できません というメッセージが OS ログに表示されます。このメッセージが表示されるのはなぜですか？

iDRAC サービスモジュールは、USBNIC 経由の OS から iDRAC へのパススルーを使用して iDRAC との通信を確立します。時折、正しい IP エンドポイントが設定された USBNIC インタフェース経由でこの通信が確立されないことがあります。これは、ホスト OS のルーティングテーブルに同じ宛先マスクに対する複数のエントリが含まれており、USBNIC 宛先がルーティング順序の最初にリストされていないときに発生する可能性があります。

表 8. 詳細

Destination (送信先)	ゲートウェイ	Genmask	フラグ	メトリック	参照	使用インタフェース
デフォルト	10.94.148.1	0.0.0.0	UG	1024	0	0 em1
10.94.148.0	0.0.0.0	255.255.255.0	U	0	0	0 em1
link-local	0.0.0.0	255.255.255.0	U	0	0	0 em1
link-local	0.0.0.0	255.255.255.0	U	0	0	0 enp0s20u12u3

この例では、**enp0s20u12u3** が USBNIC インタフェースであり、リンクローカル宛先マスクが繰り返され、USBNIC が順序の最初になっていません。このため、OS to iDRAC パススルー経由の iDRAC サービスモジュールと iDRAC 間における接続問題が発生する結果となります。接続問題のトラブルシューティングを行うには、次の手順のいずれかを実行することができます。

iDRAC USBNIC IPv4 アドレス (デフォルトで 169.254.0.1) がホスト OS から到達可能であることを確認します。到達可能でない場合は、次の手順を実行します。

- 一意の宛先マスクで iDRAC USBNIC アドレスを変更します。
- 不要なエントリをルーティングテーブルから削除し、ホストが iDRAC USBNIC IPv4 アドレスに到達したい時に USBNIC がルートによって選択されるようにします。

iDRAC サービスモジュールをインストールしようとする、このオペレーティングシステムがサポートされていないというエラーメッセージが表示されます。

iDRAC サービスモジュールをインストールできるのは、対応オペレーティングシステム上のみです。対応オペレーティングシステムについての情報は、「[対応オペレーティングシステム](#)」を参照してください。

リモート iDRAC ハードリセット機能を使用して iDRAC をリセットしました。しかし、IPMI ドライブが応答せず、トラブルシューティングできません。

VMware ESXi 5.5 U3 または ESXi 6.0 U1 でリモート iDRAC ハードリセット機能を使用しようとする、IPMI ドライバが応答しなくなり、そのために iDRAC サービスモジュールの通信が停止されます。この問題を解決するには、サーバを再起動して、IPMI ドライバを再度ロードする必要があります。

複製された LifeCycle ログはオペレーティングシステムのどこにありますか？

複製された Lifecycle ログを表示するには、次の手順を実行します。

表 9. よくあるお問い合わせ

オペレーティングシステム	場所
Microsoft Windows	イベントビューア → Windows ログ → <既存のグループまたはカスタムフォルダ>を選択します。iDRAC サービスモジュールのすべての LifeCycle ログは、iDRAC Service Module というソース名の下で複製されます。
Red Hat Enterprise Linux、SUSE Linux、CentOS、および Citrix XenServer	/var/log/messages
VMware ESXi	/var/log/syslog.log

Linux オペレーティングシステムでアラートを送信するために iDRAC サービスモジュールで設定されているデフォルトの SNMP プロトコルは何ですか？

デフォルトでは、SNMP 多重化プロトコル (SMUX) が iDRAC サービスモジュールでアラートを送信するよう設定されています。

SMUX がシステムでサポートされていません。アラートを送信するためにはどのプロトコルを設定する必要がありますでしょうか？

SMUX がシステムでサポートされていない場合、Agent-x がデフォルトのプロトコルとして使用されます。

Agent-x プロトコルを使用してデフォルトでアラートを送信するよう設定するには、iDRAC サービスモジュールをどのように設定しますか？

`./Enable-iDRACSNMPTrap.sh 1/agentx -force` コマンドを使用して、Agent-x をデフォルトのプロトコルとして設定できます。-force が指定されていない場合は、net-SNMP が設定され、snmpd サービスを再起動していることを確認します。

Linux のインストール中にインストールする必要がある Linux 依存パッケージまたは実行可能プログラムは何がありますか？

Linux 依存パッケージのリストを確認するには、「[Linux 依存性](#)」を参照してください。

Windows イベントビューアにカスタムフォルダを作成しましたが、LC ログがカスタムフォルダに複製されていません。ここで LC ログを複製するにはどうすればよいですか？

カスタムフォルダの作成後に Windows イベントビューア を閉じるようにしてください。その後再度 Windows イベントビューア を開いて、複製された LC ログを表示してください。

iDRAC サービスモジュールのインストール中に、グラフィカルユーザーインターフェースからカスタムインストールオプションを選択して、ある機能を無効化したのですが、その機能を他のインターフェースから有効化することができません。この機能を再び有効化するにはどうすればよいですか？

Microsoft Windows オペレーティングシステムを実行するシステムでは、インストーラを使用して有効化され、そのインストーラ以外のインターフェースを使用して無効化された機能を有効化することができるのは、同じインターフェース、またはグラフィカルユーザーインターフェースモードのインストーラのみです。

例えば、iDRAC サービスモジュールのインストール中にグラフィカルユーザーインターフェースから無効化された機能は、RACADM CLI コマンドを使用しても有効化できない場合があります。

LDAP 経由の Active Directory ユーザーとしてホスト OS から iDRAC ページにアクセスできません。ホスト OS から iDRAC ページにアクセスを試みているのですが、サイトに到達できないという内容のエラーが発生します。この問題を解決するにはどうすればよいですか？

ホスト OS から iDRAC ページにアクセスしようとすると、サイトに到達できないという内容のエラーが発生する場合があります。iDRAC ネットワークを LDAP ユーザーとしての認証用に設定してください。ローカルユーザーまたはゲストとしてログインすることもできます。

iDRAC の工場出荷時の設定へのリセット操作 (racadm racresetcfg など) を実行すると、ホスト OS から iDRAC ページにアクセスできなくなりました。この問題を解決するにはどうすればよいですか？

OS から iDRAC へのパスルーチャネルを有効にしてください。出荷時モードではデフォルトで無効化されています。iDRAC で OS から iDRAC へのパスルーチャネルを有効にするには、コマンド `racadm set idrac.os-bmc.adminstate 1` を使用します。

オペレーティングシステムログに複製された SNMP トラップを対象とした、過去の LifeCycle ログ (LCL) 警告を見えています。問題をトラブルシューティングできますか？

ISM は、SNMP トラップに対する過去の LifeCycle ログ (LCL) 警告と OS ログに対する過去の LCL 警告を区別することはできません。したがって、SNMP トラップに OS ログに対する過去の LCL 警告が表示されることもその反対もあり得ます。

iSM を介して受信した iDRAC SNMP トラップのソース IP アドレスとして 169.254.0.2 が表示されています。この問題を解決するにはどうすればよいですか？

Linux OS では、ホスト OS を通じて受信された iDRAC SNMP トラップでは、ホスト名またはソース IP アドレスが実際のホスト OS 名または IP アドレスの代わりに 169.254.0.2 として表示されます。これは、OS の決定によって、トラップをユーザーにレンダリングする前にエントリに入力されます。

LOM へ OS から iDRAC へのパスルーを設定し、dcism-sync を実行しようとすると、アップデート操作が失敗します。どのように対処したらよいですか？

OS から iDRAC へのパスルーは、USB NIC モードに対して設定する必要があります。これは、事前に iDRAC サービスモジュールのインストールとアップデートのための前提条件です。

Linux インストーラパッケージ

対応 Linux OS のインストーラパッケージは次の通りです。

表 10. Linux インストーラパッケージ

対応 Linux オペレーティングシステム	インストーラパッケージ
Red Hat Enterprise Linux 6	SYSMGMT\iSM\linux\RHEL6\x86_64\dcism-3.0.1- <bldno>.el6.x86_64.rpm
Red Hat Enterprise Linux 7	SYSMGMT\iSM\linux\RHEL7\x86_64\dcism-3.0.1- <bldno>.el7.x86_64.rpm
SUSE Linux Enterprise Server 12	SYSMGMT\iSM\linux\SLES12\x86_64\dcism-3.0.1- <bldno>.sles12.x86_64.rpm

 **メモ:** リストから任意のインストーラパッケージを使用して、iDRAC サービスモジュールを CentOS にインストールできます。